学内活動報告
順天堂大学保健看護学部　順天堂保健看護研究６
P.59－66（2018）

第10回順天堂大学保健看護学部公開講座「知っておきたい目の病気」～順天堂大学医学部附属静岡病院との共催の試み～

Juntendo University Faculty of Health Science and Nursing 10th Open Lecture "You want to know about Eye Diseases" ~ Attempt to co-host with Juntendo University Shizuoka Hospital ~

渡　邊　和　信*　岩清水　伴　美*　島　田　千恵子*
WATANABE Kazunobu　IWASHIMIZU Tomomi　SHIMADA Chieko
辻　川　比呂斗*　佐　野　知　世*　西　野　友　子*　大　熊　泰　之*
TSUJIKAWA Hiroto　SANO Tomoyo　NISHINO Tomoko　OKUMA Yasuyuki

要　旨

大学における公開講座は、大学の第３の機能である「社会貢献」の役割を担っており、地域社会に対する大学の取り組みとして位置付けられる。平成29年度、はじめて順天堂大学医学部附属静岡病院市民公開講座との共催となり「知っておきたい目の病気」をテーマに第10回の公開講座が開催された。第10回の節目の公開講座であること、はじめて静岡病院との共催が行われたことから、今後の開催に向けて示唆を得るため開催概要を振り返り報告する。

平成29年４月より公開講座企画小委員会において、毎月の会議を行いタイムテーブルや必要項目について打ち合わせを行った。はじめての共催であるため、静岡病院担当者とも随時、連絡を取り準備を進めた。担当委員同士の十分な連携がなされ、綿密な打ち合わせを行うことで、より良いポスター作製、広報活動の充実が図られた。当日は台風が接近する雨雲のなか130名を超える多くの参加者を得られたことは、地域に開かれ社会貢献に寄与する公開講座開催の目的が達せられたと考える。今後の課題は、より一層の静岡病院との連携から継続した公開講座の開催、広報活動の充実と周知を図ること、ニーズに応じた公開講座を開催することである。

索引用語：公開講座、病院との共催、広報活動
Key words：Open Lecture, Co-hosted with hospital, Public Relations Activity

Ⅰ．はじめに

順天堂大学保健看護学部（以後、本学部とする）は平成22年の開学時より、毎年、公開講座を開催している。大学における公開講座は、大学の第３の機能である「社会貢献」の役割を担っており、地域社会に対する大学の貢献の取り組みとして位置付けられる。これまで本学部主催の公開講座は９回開催されているが、平成29年度、はじめて順天堂大学医学部附属静岡病院（以後、静岡病院とする）市民公開講座との共催となり第10回の公開講座が開催された（表１）。

講演は「知っておきたい目の病気」をテーマに２部

＊順天堂大学保健看護学部
＊ *Juntendo University Faculty of Health Science and Nursing*
（Nov. 10, 2017　原稿受付）（Jan. 19, 2018　原稿受領）

表 1 保健看護学部　公開講座　一覧

回数	年度	日時		場所	参加者数	メインテーマ	
						講演1	（演者）
						講演2	（演者）
第1回	2010 H22	H23.3.13	日	11番教室	151名	**中・高年期を楽しく元気に過ごすための生活スタイルを見直してみませんか**	
						健やかに年を重ねるための生活とは？	高齢者看護学・教授　吉尾千世子
						食生活を見直してみよう、ためになる栄養のはなし。	臨床医学・教授　小川　薫
第2回	2011 H23	H24.3.18	日	11番教室	196名	**健康な生活を送るために日頃は余り意識しない「良い呼吸」について考えてみませんか？**	
						息することは生きること～良い呼吸で健康づくり～	臨床医学・教授　稲冨　惠子
						みんなで学ぶ感染予防	公開講座企画委員
第3回	2012 H24	H25.3.17	日	11番教室	172名	**女性の元気は地域活力の源。性差を考慮した健康づくりの大切さを考えてみませんか。**	
						高めよう!女性の健康力、目指そう!健康的な自分づくり	母性看護学・教授　豊田 淑恵
						聞いて得する健康管理ミニ講座 ①上手な病院へのかかり方 ②心と体のリラクゼーション	公開講座企画委員
第4回	2013 H25	H26.3.16	日	11番教室	86名	**知って得する！メンタルヘルス講座～ストレス対処力（SOC）を高めるために～**	
						思春期以降の発達障害の諸問題ー自閉症スペクトラムとADHDを中心にー	順天堂大学医学部附属静岡病院　桐野衛二
						ストレス対処力（SOC）を高める心のストレッチ	精神看護学・教授　浦川加代子
第5回	2014 H26	H27.3.15	日	11番教室	40名	**高めよう!健康力!**	
						どうして太っちゃいけないの??　～メタボリックシンドロームと運動の効用～	学部長　岡田隆夫
						寝たきりや認知症の予防に効果的なエクササイズしてみませんか？	スポーツ・形態機能学　講師　辻川比呂斗
第6回	2015 H27	H27.8.23	日	11番教室	108名	**知っておきたい！災害時、私自身にできること！**	
						市民にできるトリアージ	静岡病院救命救急センター　看護師長　野澤陽子 看護主任　勝間田敏宏　　看護主任　多田真也
						やってみよう応急処置	保健看護学部教員
第7回		H283.5	土	11番教室	70名	**認知症サポーター養成講座　困っている人に声をかけてみよう！**	
						講義：認知症を理解する	高齢者看護学・講師　阿部詠子
						実演：認知症の人とコミュニケーションをとってみよう！	高齢者看護学・助教　黒川佳子
第8回	2016 H28	H28.8.20	土	11番教室	39名	**こんなときどうする？幼児期の病気と対処法**	
						講義：幼児期にかかりやすい病気と受診のめやす	静岡病院 小児科 准教授　寒竹正人
						講演：早く元気になるために～病気のときに家庭でできること～	小児看護学・教授　川口 千鶴
第9回		H29.3.4	土	11番教室	79名	**災害に備えよう**	
						講演：日本における災害医療の現状	静岡病院 救急診療科 教授　柳川洋一
						講演：東日本大震災の甚大な被害を体験して、伝えたいこと	福島県南相馬市 絆診療所 管理栄養士 鶴島綾子
第10回	2017 H29	H29.9.16	土	11番教室	132名	**知っておきたい　高齢者の目の病気**	
						講演：高齢者の目の病気とは？	静岡病院 眼科 教授　太田俊彦
						講演：視覚障害を持つ高齢者の在宅療養の実際と予防	在宅看護学　先任准教授　小川典子

構成で行われ、第１部は講師の太田俊彦先生（順天堂大学医学部附属静岡病院眼科　教授）から『高齢者の目の病気とは？』のタイトルで講演があり、つぎに第２部は小川典子先生（順天堂大学保健看護学部在宅看護学　先任准教授）により『視覚障害を持つ高齢者の在宅療養の実際と予防』のタイトルで講演が行われた。本学部で行われた第 10 回の節目の公開講座であること、はじめて静岡病院との共催が行われたことから、今後の開催に向けて示唆を得るため開催概要を振り返り報告する。

Ⅱ．実施内容

1. 企画、運営について

1）テーマ、講師の選定

公開講座企画小委員会において平成 29 年４月より、毎月の会議を行いタイムテーブルや必要項目について打ち合わせを行った。はじめての共催であるため、静岡病院担当者とも随時、連絡を取り準備を進めた。

静岡病院では市民公開講座年間計画に基づき講師（医師）、テーマは決定されていることから、本学部の第 10 回公開講座としてはテーマに沿った内容の講演が行える本学教員が講師を務めることとなった。

2）広報活動

ポスター・リーフレットのレイアウトを静岡病院担当者が主体となり、複数回のやり取りを行い作成した。ポスター A3 サイズを 290 枚、ポスター A1 サイズは 15 枚、リーフレットは 4,000 枚作成し同時に配布先の検討を協議した。完成後は速やかに静岡県中部から東部地区を中心に医療機関、中学・高校・専門学校・大学の教育機関、行政機関、商業施設、公共交通機関、看護協会などに分担し配布を行った。また、開催概要の市町の広報誌への掲載やラジオ局、エフエムみしま･かんなみ（ボイスキュー）へ出演しインタビューに答えるかたちで公開講座の広報活動を行った。

3）受講者への配慮

託児が行えるよう保育士２名、学生ボランティア４名の依頼を行い、また、講演内容の手話通訳を行うため手話通訳士も２名依頼した。

4）その他

開催日の人員配置、役割分担など、詳細の打ち合わせを電子メール、電話連絡などで勧めていった。また、三島市への後援申請を始め、当日必要となるアンケート作成、保険加入、資料準備、文房具等の準備を行った。

2. 講演内容

1）テーマ　「知っておきたい目の病気」

2）実施日　平成 29 年 9 月 16 日土曜日
13:30 ～ 15:50

3）参加者　132 名

4）講演

第 1 部「高齢者の目の病気とは？」
太田俊彦教授
（順天堂大学医学部附属静岡病院眼科科長）

概要：老人性眼瞼下垂・白内障・緑内障・加齢性黄斑変性症など、それぞれの疾患の症状や原因、最新の治療法など、スライドを用いて実際の眼科検査や治療風景の説明がなされた。質疑応答では、白内障手術について関心が集まり、自分に合った治療方法について質問があり、日常生活から考えた眼内レンズの選択が必要との回答が行われた。

第 2 部「視覚障害を持つ高齢者の在宅療養の実際と予防」
小川典子先任准教授
（順天堂大学保健看護学部在宅看護学）

概要：視覚障害の原因疾患や年齢別視覚障害者割合

の紹介から、今後の将来推計を踏まえた説明がなされ、視覚障害の予防法と検査の重要性について講演され、後半では高齢者疑似体験として希望者へゴーグルを用いた加齢による視力障害を体験していただいた。公開講座に盲導犬と暮らす方が参加しており、同伴者の発案により、盲導犬と暮らす生活の実際を語っていただいた。

Ⅲ．実施の振り返り

１．アンケート結果

第 10 回公開講座の参加者数は 132 名であり、アンケート回収数は 110 名（男性 37 名、女性 68 名、不明５名)、回収率は 83.9％であった。年代別では男性が 40 代から 80 代となり、女性は 10 代から 80 代となっている。男女とも 70 代が最も多く、男性 15 名（41.5％)、女性 26 名（38.2％）の割合であった（表２，３)。

表２ 男性参加人数（n=37）

40 代	4	10.8%
50 代	3	8.1%
60 代	8	21.6%
70 代	15	40.5%
80 代	7	18.9%

表３ 女性参加人数（n=68）

10 代	4	5.9%
20 代	1	1.5%
30 代	0	0.0%
40 代	4	5.9%
50 代	11	16.2%
60 代	18	26.5%
70 代	26	38.2%
80 代	4	5.9%

職業別では無職の割合が最も多く 72 名（67.3％）であった。次いで会社員 11 名（10.3％)、自営業６人（5.6％）となっていた。専門職（保健・医療）は３名（2.8％）であったが、回答者が 107 名であり未回答者のなかには専門職（保健・医療）の存在も推察される結果となった（表４)。

表４ 参加者職業（n=107）

1. 会社員	11	10.3%
2. 自営業	6	5.6%
3. 無職	72	67.3%
4. 専門職（保健・医療）	3	2.8%
5. 介護・福祉職	3	2.8%
6. その他	12	11.2%

参加者の居住地域として、三島市 51 名（46.4％）が最も多く、つぎに伊豆の国市 16 名（14.5％)、沼津市 11 名（10.0％）の順であった。少数であるが遠方は磐田市、静岡市、河津町からの参加者もあった（表５)。

表５ 参加者居住地域（n=110）

1. 伊豆の国市	16	14.5%
2. 三島市	51	46.4%
3. 伊豆市	2	1.8%
4. 函南町	5	4.5%
5. 沼津市	11	10.0%
6. その他	25	22.7%

公開講座の開催を最初に知ったきっかけは、ポスター・チラシが最も多く 71 人（59.2％）であり、内訳をみると静岡病院内の掲示が 46 人（64.8％)、市町施設からは 14 人（19.7％）などの順であった。ついで広報誌 15 人（12.5％）が多く、内訳は主に市町の広報誌を見た方が 13 名（86.7％）を占めていた。ついで家族・知人からが 13 人（10.8％）などであった（複数回答あり）（表６)。

表６ 開催を最初に知ったきっかけ：複数回答あり（n=120）

			内　訳		
1.　ポスター・チラシ	71	59.2%	ア . 静岡病院内	46	64.8%
			イ . その他の医療機関	3	4.2%
			ウ . 市・町施設	14	19.7%
			エ . その他	8	11.3%
2.　広報誌	15	12.5%	ア . 静岡病院の広報誌	2	13.3%
			イ .　市町の広報誌	13	86.7%
3.　インターネット	4	3.3%	ア . 静岡病院の HP	1	25.0%
			イ . 保健看護学部の HP	2	50.0%
			ウ . その他	1	25.0%
4.　新聞	7	5.8%	ア . 静岡新聞	2	28.6%
			イ . 朝日新聞	5	71.4%
5.　ラジオ	1	0.8%	ア . ボイス・キュー	0	0.0%
			イ .　FM いずのくに	1	100.0%
6.　講師等の職員から	1	0.8%			
7.　家族・知人から	13	10.8%			
8.　前回の市民公開講座で	1	0.8%			
9.　病院内の放送で	1	0.8%			
10.　その他	6	5.0%			

公開講座への参加回数は１回目が 71 名（74.0％）と最も多く、回数が多くなるにつれ２回目 17 名（17.7％）、３回目５名（5.2％）と割合が少なくなっていた（表７）。

表７ 順天堂大学保健看護学部が開催する公開講座への参加回数（n=96）

１回目	71	74.0%
２回目	17	17.7%
３回目	5	5.2%
４回目	1	1.0%
５回目	0	0.0%
６回目	2	2.1%

公開講座の内容について、今後に役立つものであったか問うたところ、そう思う 75 名（85.2％）、まあそう思う 13 名（14.8％）の結果となり、あまりそう思わない、そう思わないの返答は無かった（表８）。

表８ 今回の公開講座の内容は、今後に役立つものであったか（n=88）

1.　そう思う	75	85.2%
2.　まあそう思う	13	14.8%
3.　あまりそう思わない	0	0.0%
4.　そう思わない	0	0.0%

公開講座への意見、今後の希望テーマや内容についての自由記載では、次のような意見があった。公開講座への意見として「最新の手術法も交えて詳しい話を聞くことができ、非常に役立つ内容であった」、「高齢者の在宅看護の事例紹介も非常に参考になった」、「講義後の視覚障害者の方の実体験、実生活についても切実に伝わった」などの記述があった。今後の希望テー

マや内容などについては「体に必要な栄養をうまくとること」、「身体の柔軟性を保つエクササイズなど」、「認知症・精神障害へ心理的支援方法」などについて希望があった（表 9）。

2．大学教職員の振り返り

公開講座が終了した後日、アンケート結果などをもとに企画、運営について本学部委員、静岡病院担当者それぞれで振り返りを行った。本学部委員からの意見としてこれまでは静岡病院へ赴き、講師医師の依頼、打ち合わせを繰り返していたが共催となったことから本学部・静岡病院と連携を取りそれぞれの施設で準備を行うことで時間の短縮化、委員の負担の軽減となったことなどが挙げられた。静岡病院職員からは病院だと参加受け入れ人数が限られるが、大学で行うことで参加人数が増えても対応できることや、広い範囲から参加者があり良かった、「土曜日午後」「託児所あり」という特長を活かし、働いている世代を対象としたテーマも採用したい、交通の便を向上できれば、聴講者が増えると考えられる。などの意見があった（表 10）。

Ⅳ．考察

本学部で開催された公開講座開催にあたり、第 10 回の節目となること、順天堂大学医学部附静岡病院との初めての共催であったことが特徴として挙げられる。

当日は台風が接近する雨雲のなか 130 名を超える多くの参加者を得られたことは、地域に開かれ社会貢献に寄与する公開講座開催の目的が達せられたと考える。

本学部で行われた公開講座は第 1 回から第 3 回は 150 名から 200 名近くの参加者があった。背景には新しく設立された学部として地域の期待や興味、関心が高かったことが考えられる。しかし第 4 回から第 9 回は平均 70 名の参加者にとどまり、より多くの参加

表 9 アンケート自由記載（一部抜粋）

公開講座への意見	・最新の手術法も交えて詳しいお話を聞くことができ非常に役立つ内容でありました。高齢者の在宅看護の事例紹介は非常に参考になりました。 ・わかりやすい講座だと思いました。目の検査は大事だと思いました。 ・ゴーグル体験等の企画もよかったと思います。講義後の視覚障害者の方の実体験、実生活についても切実に伝わりました。 ・保健看護学部でもっと開いてほしい。 ・実際に視覚障害者の方のお話も聞くことができとてもよかった。普段からの生活には相手のことを考えて行動したいと思いました。 ・高齢者の目の病気や在宅看護について学ぶことができたのでよかったです。予防についても知ることができ、役立ちました。　など
今後の希望テーマ・内容	・体に必要な栄養をうまくとること、身体の柔軟性を保つエクササイズなど ・認知症へ心理的支援方法について。精神障害 - 統合失調症（特に厳格妄想に関しての対応方法 - 受容、傾聴、共感技法について ・循環器に関する全般な講義をしていただければ幸いです。 ・認知症、事前に質問を出させ当日説明して頂くと個が抱えている問題解決につながると思う。初めての参加でしたが参考になる講演会でした。 ・医療と街の活性化のコラボについて。　など

表１０ 大学スタッフの振り返り

大学	・これまでは病院へ赴き、講師医師の依頼、打ち合わせを繰り返していたが共催となったことから大学・病院と連携を取りそれぞれの施設で準備を行うことで時間の短縮化、委員の負担の軽減となった。 ・ポスター作製なども相談しておこなうことで、大学・病院のニーズを取り入れた良いものが作成できた。 ・当日運営も連携が取れ、スムーズに行えた。 ・データ入力なども学生ボランティア、病院職員と協力して行うことで、短時間で終えることが出来た。
病院	・病院は最大 120 席だが、広い会場で行うことで参加人数が増えても対応できる。また、交通の便を向上できれば、聴講者がさらに増えると考えられる。 ・「土曜日午後」「託児所あり」という特長を活かし、働いている世代を対象としたテーマも採用したい。 ・病院単独の開催では、医師を講師としている。 医師以外の講師と合同開催することで、より充実した多角的内容ができる。 ・伊豆南部の人口減少から、当院以北の潜在患者を掘り起こす必要がある。 大学を会場とすることで、このエリア住民へ当院の機能を広報できる。 ・大学との連携により、当日運営もスムーズに行えた。

者を募るためには何らかの打開策が必要であった。そのようななか、静岡病院では、市民公開講座が年間を通して開催されており、参加者数の増加から会場が狭隘となり実施場所の検討が迫られていた。

以上のことから共催が決定し開催されたが、担当委員同士の十分な連携がなされ、綿密な打ち合わせを行うことで公開講座委員の負担軽減や、よりよいポスター作製、広報活動の充実が図られた。さらに当日も役割分担やスケジュールの共有からスムーズな運営が行われた。

アンケート結果から明らかとなったことは、男女ともに 70 代の方が多く参加していた。これは視力の衰えを実感する年代層にとって「知っておきたい目の病気」といったタイトルが参加動機につながったことが推察される。その他は、本人・家族が目の疾患がある人や、進路の参考とする高校生の参加もあった。このことから、地域住民のニーズの把握からテーマを設定し、公開講座を行うことでより多くの参加者が得られることが予測される。

また、参加者の多くは主に静岡病院や市町のポスターなどの掲示、配布されたリーフレットを見て参加していた。さらに市町の広報誌や家族・知人からの紹介などでも参加している。このことからも、引き続き地域に根差した広報活動を柱にしながら、さらなる広報として依頼する場所や方法の開拓を行い、広報活動を進めていく必要がある。

公開講座の内容に関しては、役に立ったとの回答であり地域住民のニーズに沿ったテーマ設定がなされたと考える。個別の意見として講義後の視覚障害者の方の実体験、実生活についても切実に伝わったことなどの返答があり、第 9 回公開講座においても体験者からの話が良かったとの評価を得ていることから、今後の公開講座に関しても、希望されるテーマに応じて体験者の話を盛り込むなど内容の検討を行っていく。

第 10 回公開講座より静岡病院との共催となった。教職員の振り返りから、医師以外も講師を行うこと

での内容の充実や、連携を取りながら行うことで準備から開催に至るまで委員の負担の軽減もされ、広報活動や運営の充実が図られていた。このことから、今後も連携し共催を重ねていくことでより良い公開講座を開催出来ると考える。

Ⅴ．おわりに

初めての静岡病院との共催となり、より充実した公開講座が行われた。また、内容は地域住民のニーズに沿い社会貢献に寄与するものであった。

今後の課題として、より一層の静岡病院との連携から継続した公開講座の開催、広報活動の充実と周知を図ること、ニーズに応じた公開講座を開催することである。

謝辞

第 10 回公開講座講師を務めていただいた順天堂大学医学部附属静岡病院眼科科長太田俊彦教授、本学部在宅看護学小川典子先任准教授に感謝申し上げます。